

茅ヶ崎市文化資料館と学校教育について

－学習利用に関する小中学校教職員アンケート調査の報告－

須藤 格^(*)

はじめに

茅ヶ崎市文化資料館（以下、「文化資料館」）には、毎年多くの小中学校による利用がある。平成20(2008)年度の総来館者数のうち、23.4%にあたる1,446人が小中学校の児童である。地域という空間と範囲に、その存在理由と基盤をもつ文化資料館のような地域博物館にとって、学校教育への協力と連携がもつ意味と役割は大きいと考える。

本稿は、「公共施設整備再編計画」に基づき、移転・整備を検討している文化資料館の今後の姿を検討するにあたり、平成19(2007)年10月に、茅ヶ崎市内の小学校・中学校の教職員を対象に、学校教育における当館の利用に関するアンケート調査の結果を集計し、考察を加え報告するものである。

1 社会教育と博物館

今回の報告を行う前に、まず、博物館類似施設である文化資料館と学校教育の関係性について概観したい。

博物館は社会教育の機関であることが博物館法に規定されている。世界的に社会教育（social education）と呼ばれているものは、開発途上国における識字率向上を意味する言葉として用いられることが多い。欧米においては、成人教育（adult education）、あるいはリカレント教育（recurrent education）と呼ばれ、生涯にわたり学習することの構成を図る生涯学習（life long integrated education）の考え方が社会に浸透している。学校教育を補完するものではなく、学校教育と対等なものとして認識され、さらに学校教育は生涯学習の基礎として位置づけられている。

日本においては、教育＝学校教育とする偏重傾向があり、社会教育との隔たりは大きい。そのため、

社会教育は学校教育の補助的・補完的教育であると認識されている感がある。これは、社会教育法第2条「社会教育の定義」において謳われている、「この法律で『社会教育』とは、学校教育法（昭和22年法律第26号）に基き、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む。）をいう。」という文言にも表れている。しかしながら、社会教育には、学校教育や家庭教育とは異なった視点があり、その教育原理も異なったものであると考える。

教育原理は、教育とは何かという根源に立ち返る哲学的な研究ではなく、プラグマティズムに基づく、教育の実践のために最低限必要な「心得」のことである。つまり、教育が行われるあらゆる現場における、その実践根拠と指針であると考ええる。学芸員の資格取得課程において、教育原理が必須科目とされていることの理由もここにあると考える。

社会教育の教育原理は、社会教育の実践的な原理は何かということである。そのことについて学校教育との対比から考えたい。社会教育は、学校教育のように特定の家庭や外的な強制によるものではなく、自ら課題を見つけ探究するという学習活動によって成立する。学習活動への参加は個人に任された自由なものであり、それを利用しないことでどこからも非難されることがないのが特徴的である。また、その利用についても自由であり、学習にかかる時間も限りはなく、その結果に対し何の資格も与えられない、全くの個人の主体性と意欲によるものである。

では、博物館における社会教育とは何かということについて考えてみたい。博物館は、調査研究をもとに、「モノ」が収集・保存され、その成果に基づ

き展示・ワークショップといった教育活動を展開することが役割である。博物館は、それぞれの専門とする分野に関して、地域に立脚する博物館の場合は特にその地域について、広く深い視点で探求し、収集した実物資料である一次資料、もしくは模写・複製等の二次資料を保存し、来館した学習者がその興味関心にあった学習ができるよう展示を行うことに努めている。このことから博物館の社会教育の最大の特徴は、「展示」にあると考える。

展示されているモノを観察し、その背後にあるコト（情報）を認識することで学習が発生する。展示とは、その言葉のとおり、モノを陳列し、モノとモノに関連性を持たせ、提供し見せることを通じて、歴史や自然、文化を体験的に学習することを補助、支援することが博物館における社会教育機能であり、学習の最大の特徴である。

2 学校教育と文化資料館

文化資料館のように地域に立脚する博物館は、とりわけ、その土地が内包する人々や文化が活動の母体であり、基点となる。

郷土としての地域社会に関する展示を通じて学習機会を提供し、郷土の記憶を後世に、次世代に継承していくことが使命であると考えれば、地域が内包する「モノ」と、学校教育、とりわけ義務教育課程との連続性を生み出すことに努めることで、博物館と学校教育の関係性が生まれると考える。展示されている「モノ」を観て、ときには触れ、感じることで直接的にそして感覚的に学んだり、教科書や写真、映像では得られないものを感じたりすることに、博物館の学校教育との関係に意義が生じると考える。

地域の博物館活動と接することから、地域の特色を知ってもらい、自分が住まうまちの価値を発見・再発見するという社会教育機能こそが、地域に立脚する博物館の唯一の存在理由であり、地域教育の中心となり得ると考える。

たとえ、都市化が進み、地域社会の崩壊が指摘され現代にあっても、子どもたちにとって、茅ヶ崎と

いう地域は、自分が生まれ、育ち、学習し、生活する実際的な世界である。教育の源泉たるものは郷土としての茅ヶ崎であることに変わりはなく、その郷土教育を実践できるのは文化資料館以外ないと考える。



図 1 小学生の来館と展示解説

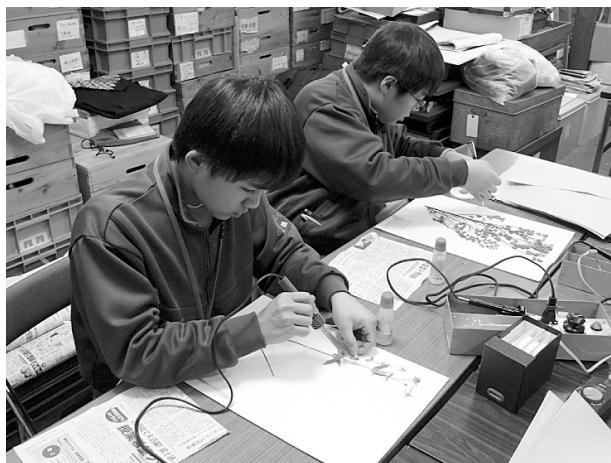


図 2 中学生の職場体験学習への協力
(腊葉標本作成体験の様子)

3 アンケート調査と結果

今回行ったアンケート調査とその結果を次のとおり報告する。

調査は、平成 19（2007）年 10 月に、茅ヶ崎市内の小学校 18 校、中学校 13 校（表 1）の教職員 553 名を対象に行った。

また、アンケートの質問の内容は図 3、4 のとおりである。

中学校	小学校
第一、鶴嶺、松林、西浜、松浪、梅田、鶴が台、浜須賀、北陽、中島、円蔵、赤羽根、萩園 (計 13 校、200 名)	茅ヶ崎、鶴嶺、松林、西浜、小出、松浪、梅田、香川、浜須賀、鶴が台、柳島、小和田、円蔵、今宿、室田、東海岸、浜之郷、緑が浜 (計 18 校、353 名)

表 1 調査を行った小中学校と教職員数

茅ヶ崎市文化資料館に関するアンケート（教職員様向け）	茅ヶ崎市文化資料館に関するアンケート（教職員様向け）
Q1 現在、担当されている学年にのびてください 小学校低学年口 小学校中学年口 小学校高学年口	Q1 現在、担当されている学年にのびてください 1年生口 2年生口 3年生口
Q2 茅ヶ崎市文化資料館を知っていますか？ はい口 いいえ口	Q2 茅ヶ崎市文化資料館を知っていますか？ はい口 いいえ口
Q3 文化資料館を授業（社会科や総合的な学習の時間等）で活用したことはありますか？ はい口 いいえ口	Q3 文化資料館を授業（総合的な学習の時間等）で活用したことはありますか？ はい口 いいえ口
Q4 文化資料館が資料の貸出を行っていることをご存知ですか？ はい口 いいえ口	Q4 文化資料館が資料の貸出を行っていることをご存知ですか？ はい口 いいえ口
Q5 授業で文化資料館を活用したことがある先生にお聞きします。活用した経験は？ □ 期待通りの学習効果を得ることができた (→Q6へ) □ 期待したほどの学習効果を得ることができなかった (→Q7、Q8へ)	Q5 授業で文化資料館を活用したことがある先生にお聞きします。活用した経験は？ □ 期待通りの学習効果を得ることができた (→Q6へ) □ 期待したほどの学習効果を得ることができなかった (→Q7、Q8へ)
Q6 文化資料館のどのような点が子どもたちにとってよかったと思いますか？（複数回答可） □ 館員による展示解説 □ おかしめのくらしの展示 □ 自然に関する展示 □ 昔古（土器等）の展示 □ 展示物を実際にみながら解説を聞くこと □ その他（ ）	Q6 文化資料館のどのような点が子どもたちにとってよかったと思いますか？（複数回答可） □ 館員による展示解説 □ おかしめのくらしの展示 □ 自然に関する展示 □ 昔古（土器等）の展示 □ 展示物を実際にみながら解説を聞くこと □ その他（ ）
Q7 子どもたちにとってよくなかった点、改善してほしいところはありましたか？（複数回答可） □ 館員による展示解説 □ おかしめのくらしの展示 □ 自然に関する展示 □ 昔古（土器等）の展示 □ 展示物を実際にみながら解説を聞くこと □ その他（ ）	Q7 子どもたちにとってよくなかった点、改善してほしいところはありましたか？（複数回答可） □ 館員による展示解説 □ おかしめのくらしの展示 □ 自然に関する展示 □ 昔古（土器等）の展示 □ 展示物を実際にみながら解説を聞くこと □ その他（ ）
Q8 どのような展示や設備、サービスがあれば子どもたちにとってよいと思いますか？（複数回答可） □ 体験型の展示 □ 調べ学習ができる図書コーナー □ 映像による展示室 □ 調べ学習への職員によるアドバイス □ 有料コピーサービス □ 休憩スペース □ 分科で分けずに、茅ヶ崎の歴史的な人々のくらしや自然の変遷が、様々な角度から一貫して学ぶことができる展示 □ 民泊、昔古、自然などの分野ごとに分かれた展示 □ 茅ヶ崎に関するさまざまな企画展示が半年毎くらしにあれば利用したい □ その他（ ）	Q8 どのような展示や設備、サービスがあれば子どもたちにとってよいと思いますか？（複数回答可） □ 体験型の展示 □ 調べ学習ができる図書コーナー □ 映像による展示室 □ 調べ学習への職員によるアドバイス □ 有料コピーサービス □ 休憩スペース □ 分科で分けずに、茅ヶ崎の歴史的な人々のくらしや自然の変遷が、様々な角度から一貫して学ぶことができる展示 □ 民泊、昔古、自然などの分野ごとに分かれた展示 □ 茅ヶ崎に関するさまざまな企画展示が半年毎くらしにあれば利用したい □ その他（ ）
Q9 文化資料館を学校として利用する際の留意点を教えてください。 □ 学校からの距離 □ 授業時間の関係から外に出るのが難しい □ 学習スペースがない □ 時間を削げるほどの学習効果が期待できない □ 駐車場がない □ 展示スペースが狭い □ その他（ ）	Q9 文化資料館を学校として利用する際の留意点を教えてください。 □ 学校からの距離 □ 授業時間の関係から外に出るのが難しい □ 学習スペースがない □ 時間を削げるほどの学習効果が期待できない □ 駐車場がない □ 展示スペースが狭い □ その他（ ）
Q10 最後に、文化資料館に意見や要望がありましたら教えてください。 お忙しい中、アンケートへのご協力ありがとうございました。 2007年9月 茅ヶ崎市教育委員会 生涯学習課 茅ヶ崎市文化資料館	Q10 最後に、文化資料館に意見や要望がありましたら教えてください。 お忙しい中、アンケートへのご協力ありがとうございました。 2007年9月 茅ヶ崎市教育委員会 生涯学習課 茅ヶ崎市文化資料館

図 3 小学校教職員用アンケート用紙

図 4 中学校教職員用アンケート用紙

アンケート調査結果を下記のとおり集計した。

1) 文化資料館の認知度について

	小学校	中学校
知っている	95%	86%
知らない	5%	14%

3) 資料貸出に関する認知度について

	小学校	中学校
知っている	45%	31%
知らない	55%	69%

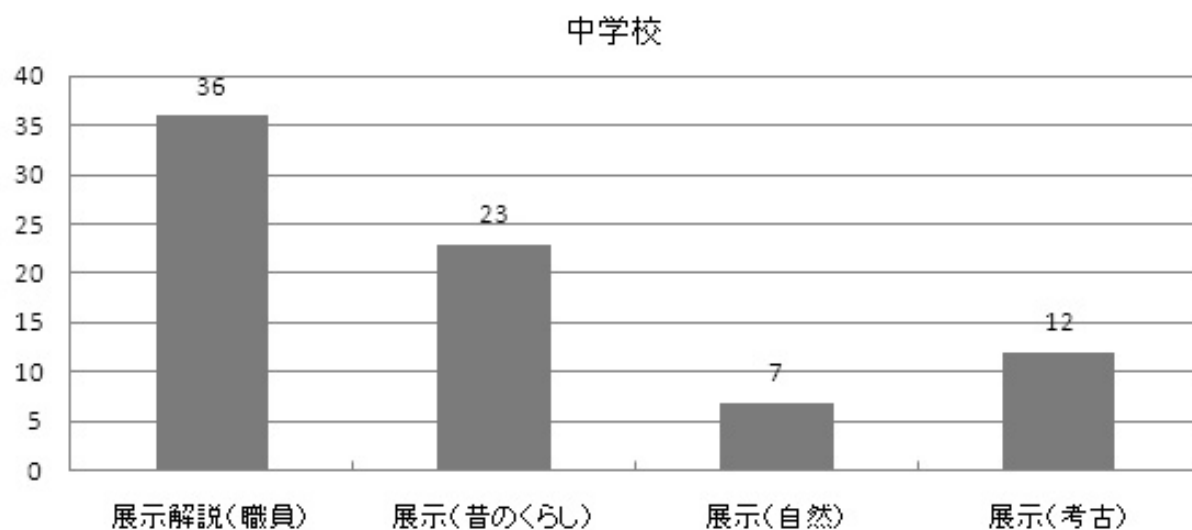
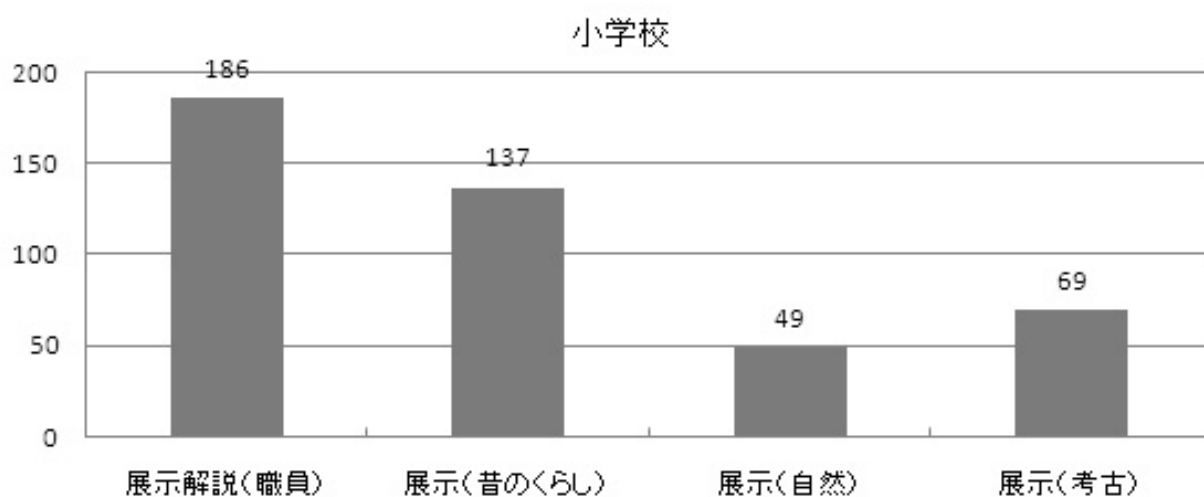
2) 利用（活用）経験について

	小学校	中学校
あり	54%	28%
なし	46%	72%

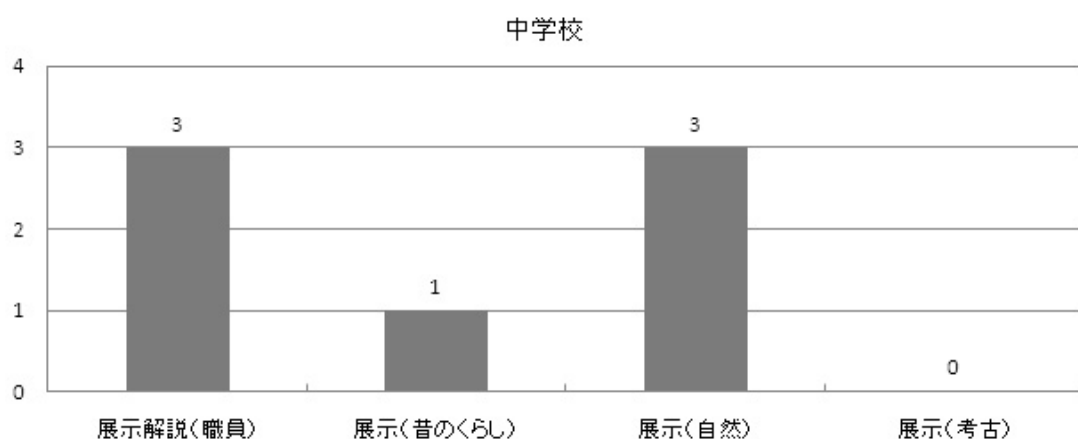
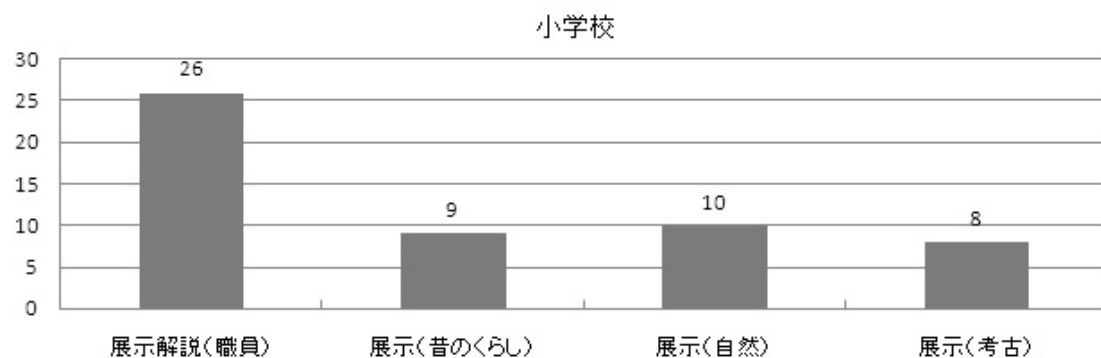
4) 学習効果について

	小学校	中学校
学習効果あり	90%	90%
〃 なし	10%	10%

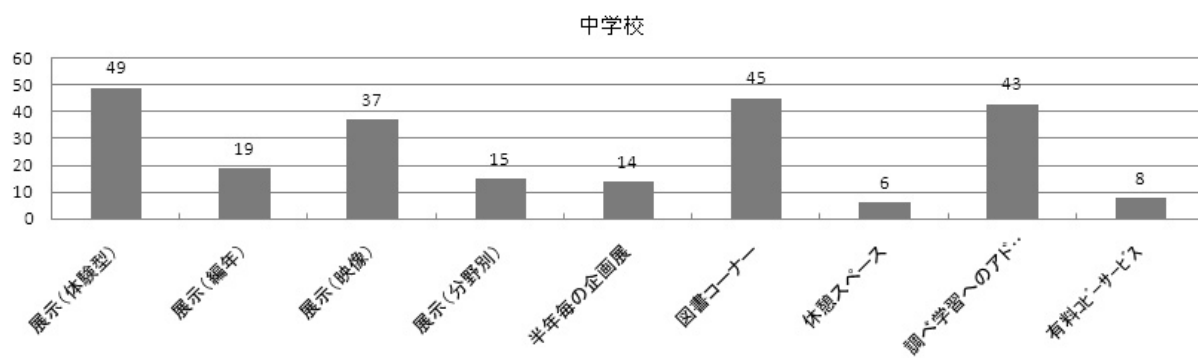
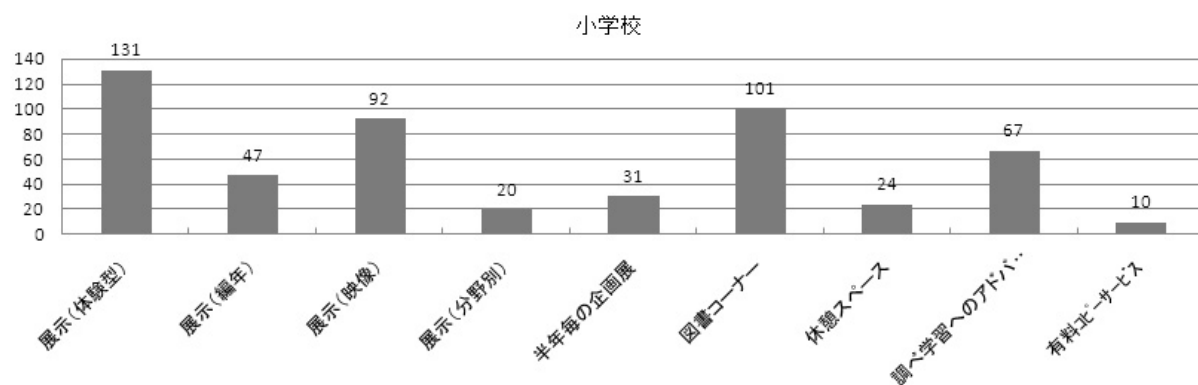
5) 利活用してよかった点について



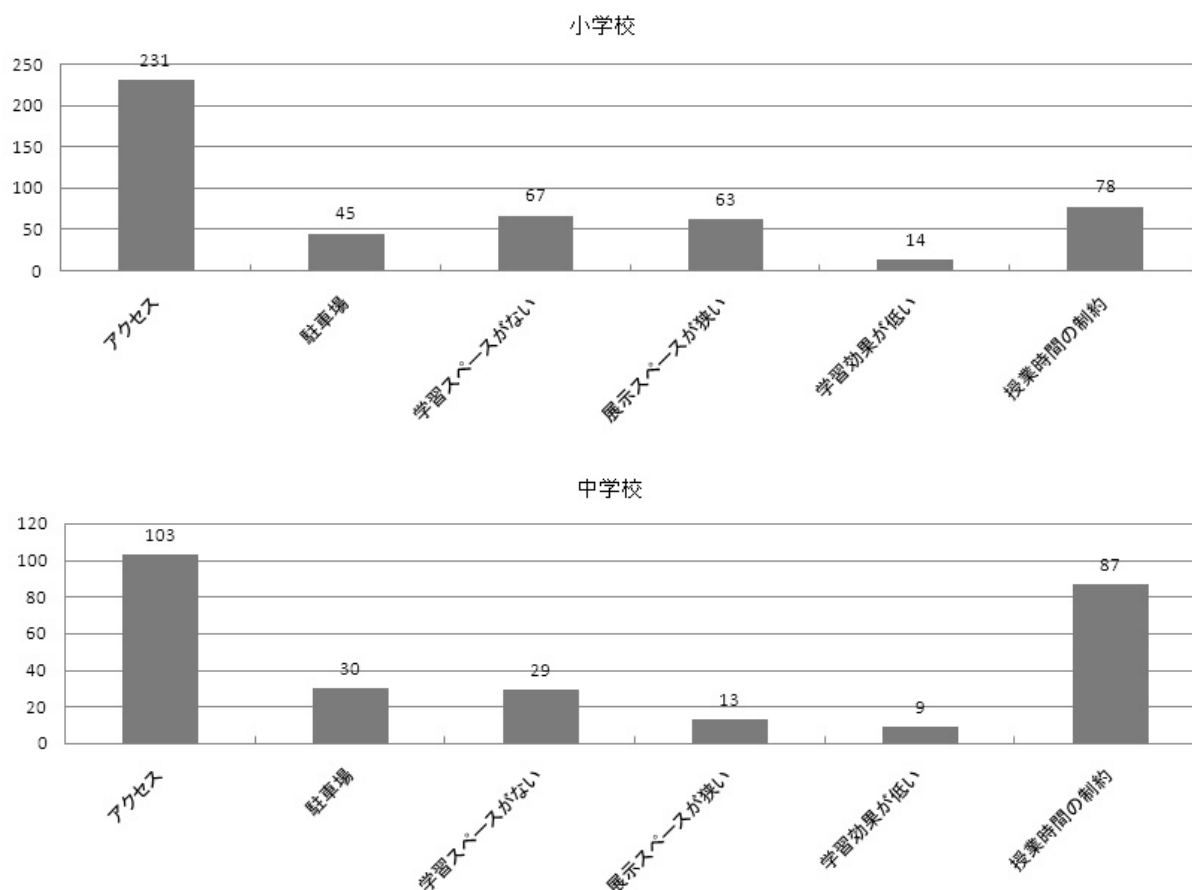
6) 改善してほしい点について



7) 望ましい機能について



8) 学校が利用するにあたっての問題点について



9) その他の具体的意見・提案について

○小学校教職員からの意見・提案

施設について	・4クラス学年全部が入れなかった。 ・建物自体がもっと大きいと見学しやすい。展示物を多くしてほしい。 ・スペースの確保。狭い。(多数) ・実際に昔の道具を使って体験できるコーナーがあるといいです。 ・教職員も資料等アドバイス頂けると嬉しいです。 ・大人数でも話を聞ける部屋があるとよい
アクセス	・貸切バスを使うほどでもないし(駐車場がない)、徒歩で歩ける学校しか利用できないのが残念。 ・今の時代子どもと一緒に歩いていくのがとてもたいへん。 ・至る道路が狭いことや、車の通行量が多いことにより、安全面が心配。クラス数が多いと1度で計画できない。 ・外観など子ども達に馴染みにくい点、改良されたら子ども達の放課後等の利用も可能性として高くなるかも。 ・駅よりも北にあると大変利用しやすいです。 ・徒歩で行けない学校も利用できる方法が考えられないでしょうか？ ・送迎バスとして市役所のバスなどを利用できたらよいと思う。 ・もう少し気楽にいける場所にあるとよいのですが。(市の中心部) ・歩いていくことができる距離だったら何回でも利用したい所です。
出張授業について	・出前授業で学校に来てほしい(多数意見あり) ・どんな貸出しと対応があるのかリストを1部掲示用として学校へほしいです。 ・学校を定期的に巡回したらどうでしょう。
展示	・児童が見学しながら、クイズに答えたり思ったことを記入できるようなプリントが事前に用意が出来ることより効果的だと思います。 ・資料館が何通り(自然、地形、土器・・・etc)かの内容を中学年用高学年用くらいのものを作成していただけると嬉しいです。 ・子ども達の学習スペースとしてPCや映像等での学習補助ができればいいかと思いますがいかがでしょうか？ ・資料の活用から学習スペースがなく、その場で学習をまとめるところがあるといいですね ・定期的に子ども達向けのおたよりなどがあれば楽しいかなと思います。 ・現代についてのスペースの設置。 ・3・4年で昔のくらしとまちづくりの単元があり、100年前、60年前、30～40年前と時代がわかる展示コーナーや体験コーナーの設置。 ・何度でも足を運びたいような資料館にするために展示の模様替えなど季節ごとにしてほしい。 ・暗い感じがするので、もう少し明るいところにしてほしい。 ・低学年、中学年の子どもに分かりやすい写真や地図、説明もあればうれしいです。

○中学校教職員からの意見・提案

展示	・全体的に暗いイメージで少し面白味がほしいところ ・操作するなど動きのある展示物が少ない ・何が置かれていてどんな学習に役立つかを広報活動で広めてほしい ・中に入って見てないのでわからない ・文化資料館のことをよく知っていないため利用できない ・市内で唯一の施設ですので大切にしていきたいと思っています ・どのような資料があるかわからない、よってどう活用してよいかわからない ・本館以外のオープンスペースで企画展示などを行い、収蔵資料がどんなものがあるか、知らせる展示をしてほしい。 ・プラネタリウムなど楽しいコーナーも作ると行きやすい。 ・とても大切な資料を得られる所なので生徒が「またいきたい！」と楽しく感じられる資料館を希望します。 ・仕方がないことですが、展示品が古くなったりあまり変わらないことがあります。少しずつ変えてほしいです。
出張授業について	・出前授業に対するリクエスト（多数） ・学校が総合的な学習や行事の時に関係する団体や講師を紹介してくれたり相談にのってくれる機能(パソコン・メール・HP)を充実させてほしい。
施設について	・もう少し広く ・調べ学習の時テーブルがあると助かります。 ・文化資料館の名称を小中高生にも親しみのもてるものに改称してみたらいかがでしょう。 ・どうしてもかじみが薄い印象です。 ・夏休みに利用させることが主になってしまいます。広い空間があればと思います。 ・博物館化を望む意見多数
アクセスについて	・見に行こうと思ったが場所が正確にわからなかったこともあり、行けなかった。

4 アンケート調査結果のまとめ

調査結果から確認できることや課題を列記する。

- ・認知度は小中学校ともに高い。
- ・利用したことがある教員は小学校では 54%と半数以上にのぼるが、中学校に関しては 28%と少ない。その理由として、アクセスの悪さが指摘されている。
- ・資料貸出の認知度は小中学校ともに低い。貸出資料のリスト作成が期待されている。
- ・来館することによる、地域に関する学習の効果が高いことは感じているが、授業時間とアクセスの問題から、あえて授業に活用しない場合が多い。
- ・来館してよかった点では、実際に資料の解説を聞きながら、見て、触れるという「ハンズオン展示」による学習効果があげられている。また、より多くのハンズオン展示が希望されている。反面、学芸員による解説の力をより高いレベル（学習内容にあった展示解説）が期待されている。
- ・求められている機能として、体験型の展示、映像等を用いた視聴覚展示、調べ学習が行える図書コーナーの設置があげられている。
- ・小中学校が授業に利用するにあたっての問題点

として、アクセス、駐車場がないこと、展示スペースの狭さが上位にあげられている。

5 まとめ

カントは、「人間は教育が人間から作り出したものに他ならない。注意すべきことは、人間によってだけ教育されるということ、しかも、同じように教育された人間によってだけ教育されるということである」（カント『教育学』）と述べている。教育は、人間にとって根源的な課題であり、過去の伝達であり、未来への継承でもある。そして、外部から与えられるものだけでなく、内部にある可能性を伸ばし、育み、より良い人間形成と社会形成にその目的性があると考ええる。

博物館という社会教育の装置は、今日その存在理由と意義について岐路に立っていると考える。博物館が社会にとって必要とされ、モノを媒介としてコトを伝え、新たな価値創造へとつながる社会教育機関である続けるヒントが、学校教育との協力・連携関係の模索の中にあると考える。

近年、増加している来館者数に比べ、それに占める小中学生の割合は減少傾向にある。市の人口における 15 歳未満の人口は、平成 7 年以降現在まで、約 32,000 人と横ばいであるにも関わらず、来館者割合が減少しているということは、小中学

生の利用が減っていることを示している。今回の調査では、利用が減少している原因の一部を把握することができたと考える。

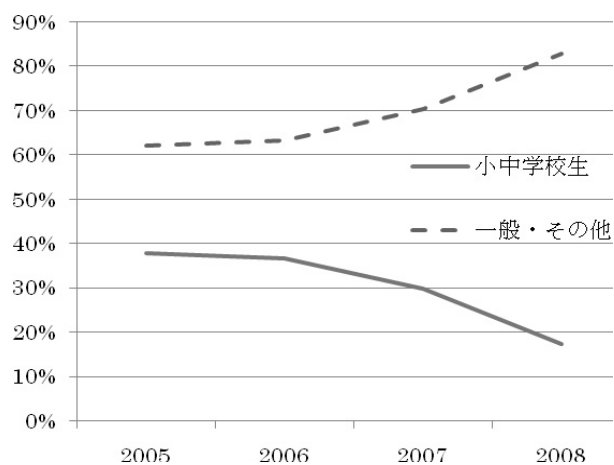


表 2 来館者数における小中学生の割合

アンケート調査でいただいた、教職員の方々の現場の貴重な生の声を課題として捉え、文化資料館が行う地域社会における博物館活動に反映し、具現化することで、郷土を学び、そしてこのまちの未来を担っていく子どもたちの形成に尽力できるよう、新たな文化資料館づくりを推進し活動を展開していきたいと考える。

さいごに、多忙を極める学校運営にもかかわらず、本アンケート調査に協力いただいた市内小中学校の教職員の方々に、心から御礼申し上げます。

* 茅ヶ崎市教育委員会生涯学習課文化財保護担当
茅ヶ崎市文化資料館

【参考文献・資料】

- 加藤有次「博物館学概論」雄山閣, 1996
 加藤有次ほか「新版・博物館学講座第1巻 博物館学概論」雄山閣, 2000
 鈴木真理「改訂 博物館学概論」樹村房, 2004
 全国大学博物館学講座協議会西日本部会「新しい博物館学」芙蓉書房, 2008
 倉田公裕・矢島國雄「新編 博物館学」東京堂出版, 1997
 上山信一・稲葉郁子「ミュージアムが都市を再生する」日本経済新聞社, 2003
 エマニュエル・カント「教育学」理想社, 1965
 P. ラングラン「生涯教育入門」全日本社会教育連合会, 1981
 「茅ヶ崎市推計」茅ヶ崎市, 2009
 「公共施設整備再編計画」茅ヶ崎市, 2008